

かわら版 いっわしる



「有機農業を始めて四十
年。これまでの軌跡に感
謝を込め、今後は恩返し
をしていきたいです」
〜渡辺文男さん〜

一般社団法人有機農業研究会
の副理事長で、オーガニック福
島安達の相談役も務める下長折
在住の渡辺さんに、有機農業を
始めたきっかけやこれまでの軌
跡、今後の抱負等について話を
伺いました。



▲冬期はカブやニンジンなどの出荷に忙しい

Q 有機農業を始めた理由は？

最初に興味を持ったのは二十
代の頃、『沈黙の春』（レイチ
エル・カーソン著、青樹築一訳
新潮社刊）という本を読んだ
のがきっかけです。日本の農業
の未来に危機感を覚え、農薬や
化学肥料を使わない農業に取り
組むことの
必要性を痛
感しました。

そのとき
の衝撃が原
体験となり、
有機農業と
ともに歩む
ことを決意
しました。

家族の理解や協力があつたか
らこそ実現できたと思うので、
本当にありがたいです。



▲菅野伝授さんが描いてくれた野菜の絵をラベルに制作

Q これまでの軌跡は？

当時は「有機農業」という言
葉も聞き慣れない時代でしたの
で、決して順調な道ではありません
でした。金銭的にも厳しい
時期が続きましたし、子どもた
ちを大学にやるために副業もし
なければなりませんでした。や
がて同じ志を持つ仲間も増え、

「文男さんみたいに
いろいろな野菜を作れるよう
になることが今の目標です！」

〜菅野大地さん〜

小浜出身の菅野さんは、大学卒業後に関東にて就職しま
したが、「何か違う」と感じて幼い頃から興味があった
農業の道へ。渡辺文男さんのもつとで1年間の農業研修を
経て、昨年4月に独立しました。渡辺さんの畑の一部を
借りて、野菜作りにチャレンジ中です。



▶「冬でも野菜を出荷でき
るよう古いビニールハウス
付きの畑を別々に借りました。
毎日、ビニールハウスの補
修作業に取り組んでいます」

◀「決して楽な仕事では
ありませんが、会社勤め
のようなストレスはない
ですね。収穫の時の喜び
は大きいです」



ようやく希望が見えてきた矢先
に東日本大震災が起きました。
さらに風評被害を受け、もうダ
メかもしれないと思いましたが、
そんな苦しい時に「福島の有
機農業を絶やしてはいけない」
と救いの手を差し伸べてくれた
人々や団体のおかげで、現在が
あります。パルシステムやヨー
クベニマル、コープなど販路も
開拓し、有機農業を続けていく
ことに手応えを感じています。

Q 今後の抱負や夢は？

これまでの人生を振り返ると、
周りの人々や、有機農業を応援

してくれているいろいろな人との出
会いに助けられてきました。こ
れからは人生の恩返しの意味で、
有機農業をめざす人たちの手助
けができたらと思います。
二本松だけでなく日本にとつ
ても未来への
希望とな
る有機農業
を、より若
い世代へと
つないでい
くことが、
今後の自分
の役割と感
じています。



▲宿泊できる研修施設も増設

さくらの郷のオリジナル
合格餅×バレンタイン餅

この冬も販売します！

「さくらの郷」で人気のお餅を使ったオリジナル商品がこの冬も店頭で並んでいます。白と杵でついた餅特有の伸びの良さと懐かしい食感が楽しめます。

●合格（五角）餅：1個 500円
店頭での販売は1人2個まで。予約注文は4日前までをお願いします。

→さくらの郷 ☎68-4770



▲「合格」にかけて五角形、「粘り強く合格」「餅を食べて餅ろん合格」「さくらの郷でサクサク」など楽しい語呂合わせがいっぱい。受験生のラッキーアイテムとして岩代地域内の中学3年生に今年も贈呈しました

「合格餅」は1月にFM福島でも紹介されました。2月上旬から「バレンタイン餅」も店頭で並びます！

さくらの郷・駅長
安斎正人さん

「ハート形のバレンタイン餅は一口サイズで食べやすいです。贈り物にぜひ！」



▲17世紀に造られた名鐘とめおと杉

東禅寺の山門にそびえる二本の杉の巨木は、「東禅寺のめおと杉」として昭和二十八年（一九五三）に県の天然記念物に指定された。岩代を愛する人がすすめる地の魅力あるスポットを紹介。十四回目は、東禅寺の二十九世住職・佐藤智宏さんです。

I Love Iwashiro ⑭
東禅寺のめおと杉

歴史を遡ると、その昔、天満宮の参道に植えられたものを、天文三年（一五三四）、東禅寺開山の際に寺の山門としたと伝えられます。以来「めおと杉」は、東禅寺のシンボルツリーとして親しまれてきました。私が幼い頃は、杉の落ち葉を集めてたき火をしたり「大杉遊園地」と呼ばれ、今は駐車場になつていいる場所で遊んだりしました。東日本大震災以前は、元の小学生がフィールドワーク

定されまし
た。高さ約
四十七メー
トルの高い
方が男杉、
四十四メー
トルの低い
方が女杉と
され、推定
樹齢は当時
で六百年。



▲太い方の幹回りは約9.4メートル

◇紹介してくれた方◇

東禅寺・住職
(小浜字新町489)
佐藤智宏さん



「毎月第一日曜の朝6時30分
から坐禅会を開催しています。
別に坐禅体験も可能です。興味
のある方は、お問合せください」

に訪れ、皆
で手をつな
いで幹回り
を測る光景
も見受けら
れました。
また、数
年前にはテ
レビで福島
の巨木ラン
キング八
位として紹
介され、遠
方から見
学に訪れる
人も増えて
います。
桜の時期に
は境内裏手
のしだれ
桜も見事
です。本堂
の見学も
可能です。立
ち寄られた
際には、ど
うか気軽に
声をかけて
ください。



▲桜の季節にも訪れたい

※ちなみに当時の小浜城、宮森城周辺は「小浜」ではなく、宮守村であり、二本松藩小浜組（宮守村、上長折村、下長折村、西勝田村、小浜成田村、西荒井村、下太田村、大平村、鈴石村、外木幡村、平石村の十一村）に属していた。明治九年（一八七六）六月十一日、宮守村を小浜村と改称し、初めて地名としての「小浜」が登場するのである。

う。そのかっお節は、はるか相馬から運ばれたもの。塩の道の存在に窮地を救われた思いだったろう。着任し、山の中なのでびっくりしたものの、答えた以上引っこみがかからない。將軍には必ず「小浜のかっお節」を献上物の一つに加えたという。もちろん、

「海がないのに「浜」を名乗っている「小浜」。小浜城を築城した大内氏がかつて居住した若狭小浜（福井）と似ていたため名付けたとされるが、この名前がしばしば誤解を招いた。次のような逸話がある。
寛永二十年（一六四三）、丹羽光重が二本松に移封された時、將軍家光に聞かれた。「近くに小浜という浜があるらしいが、どんな魚がとれるのか」。光重は何も知らぬまま答えた。「ニシンもカツオもとれましたよ。」着任し、山の中なのでびっくりしたものの、答えた以上引っこみがかからない。將軍には必ず「小浜のかっお節」を献上物の一つに加えたという。もちろん、

岩代の歴史シリーズ
「塩の道」⑥